マレーシアの小学校・中学校視察

（2016 年 8 月 12 日）

S JKC Pay Fong2（培風第 2 小学）というクワラルンプールから 2～3 時間車で行ったマラッカにある小学校を訪ねました。マレーシアにはマレー語と中国語とタミール語の学校があり、それぞれの言葉で教えています。マレー語は国語なので、どの学校もマレー語の授業があります。授業は 30 分単位になっています。

ここは中国語の公立小学校で 5 年生は中国語 10 クラス、マレー語 8 クラス、英語 6 クラスを履修します。その他に数学、歴史、体育、保健、科学、音楽、美術、道徳等があります。7 時 45 分から授業が始まり、1 時 45 分に終わります。間の休息が 10 時 45 分から 11 時 15 分までと短いです。英語は 1 年生から習っているので、5 年生になるとかなり進んだ内容の教科書になります。

教科書は無料で支給されますが、学年が終われば学校に返して、次の学年が再利用します。部活動は外部からコーチが来ますので、先生達は 4 時半には帰宅できるようです。

小学校まではマレー語、中国語、タミール語の学校に分かれていますが、中学校になるとマレー語の学校だけになります。

クアラルンプールにある Pejabat Pendidikan Wilayaha Bangsar & Pudu という中学校を視察しました。急な訪問にもかかわらず、アハマッド校長先生が丁寧に説明をしてくださいました。

1957 年にイギリスから独立する以前の 1951 年に提出された国民教育制度では国民小学校でマレー語と英語による 2 言語主義教育が行われていました。中学校では英語で教育が行われていたので、英語はかなり高水準でした。独立後はマレー語重視になったので、英語の水準は低下しました。また、マレー人優先の教育政策が提案されました。

2004 年以降は小学校で数学や理科を英語で教え始めました。その結果、英語力は伸びたが国語や数学の力が落ちました。今年からは数学や理科を英語又はマレー語で選択して学べるようになったそうです。

IT 教育が盛んで、No reading books. Reading tablets!と言って、IT を使った教育が推し進められています。
2025 年までに世界で 1 番の教育システムになる予定との校長先生のお話でした。

あぜりあ Language School 校長勝山ひとみ

マラッカの小学校

クアラルンプールの中学校

アハマッド校長先生